

西暦 2024 年 1 月 31 日

2023 年度聖路加国際大学大学院
看護学研究科課題研究

院内助産・助産師外来の実装に向けた
促進要因・阻害要因の分析
:スコーピングレビュー

Analysis of Facilitating and Barriers to Implementing
Midwife-led Continuity of Care
: A Scoping Review

学籍番号 22MW011
氏名 薦 千咲季

要旨

[目的]

日本において、院内助産・助産師外来は実装が進んでいないといえる。本研究の目的は、院内助産・助産師外来の課題に関するスコーピングレビューを、実装研究で多く使用されている CIFR のフレームワークを用いて行うことで、院内助産や助産師外来を促進ならびに、阻害する因子を明らかにし、実装戦略の作成に寄与することである。

[方法]

PRISMA-ScR の方法論に則り、スコーピングレビューを行った。和文献は医学中央雑誌 Web 版 Ver. 5 を、英語で出版されている文献は、PubMed、The Cochrane Library、CINAHL をデータベースに用いた。検索対象の概念を#1 院内助産/助産師外来、#2 促進/阻害、#3 助産、#4 継続ケアとし、各概念を AND で組み合わせ検索をおこなった。

選定された文献はタイトル、著者、発行年、国、研究デザイン、研究対象、データ収集方法、そして院内助産・助産師外来の実装決定因子を抽出し、実装決定因子は CFIR のフレームワークに分類し、分析に用いた。

[結果]

計 822 文献を対象にスクリーニングを行い、設定した適格基準に基づき 66 文献が選定された。採用文献から抽出された院内助産・助産師外来の実装決定要因は、CFIR の 67 の構成概念のうち、250 の促進要因と 166 の阻害要因として特定され、これらは分析により、促進要因は 91、阻害要因は 62 のカテゴリーに集約された。

【イノベーションの特性】では 28 の促進要因と 15 の阻害因子が特定された。【外的セッティング】では 21 の促進要因と 28 の阻害要因が特定された。【内的セッティング】では 112 の促進要因と 95 の阻害要因が特定された。【個人特性】では 75 の促進要因と 27 の阻害要因が特定された。【実装プロセス】14 の促進要因と 1 つの阻害要因が特定された。

[結論]

院内助産・助産師外来の実装決定要因について報告された論文を体系的にまとめ、CFIR を用いて分析を行った結果、院内助産・助産師外来の決定要因として、46 の構成概念が該当し、250 の促進要因と 166 の阻害要因が特定された。これらの促進要因ならびに、阻害要因から、日本において、院内助産・助産師外来の実装が可能な戦略として、院内助産・助産師外来の利用対象者を拡大すること、助産師の継続ケアが提供できる体制を整備すること等が示唆された。